

# 令和5年度 学校評価報告書

## 1 本年度の重点目標

- 生徒一人ひとりの学校生活を充実させ、希望進路を100%達成するために
- (1) 基本的な生活習慣を養成し、社会人としての資質・能力を身につけさせる。
  - (2) 基礎学力の定着を図り、希望進路達成できる学力を身に付けさせる。
  - (3) キャリア教育を組織的に推進し、勤労観・職業観を身に付けさせる。
  - (4) 学校行事・部活動・地域連携活動の活性化を推進する。
  - (5) 安全・安心な学校づくりのため、安全教育の充実と危機管理の徹底を図る

## 2 自己評価

A 達成している    B おおよそ達成している    C あまり達成していない    D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価	
		自己評価結果	改善の方策
学習指導 (教務部)	① 基礎学力の向上	B	毎朝の「雁歌TIME」にて朝読書や基礎力養成問題集を実施し、今後も継続する。また全生徒共通問題で「伊具高Champion Ship」を行った。学習への動機付けを刺激し、今後も基礎学力の向上に力を入れたい。
	② 授業力の向上	B	研究授業の見学方法を変更し、複数の教員で研究授業を見合うことで、良い研修となった。本年度は全教科・全系列で1名以上の授業提供を頂いて参観する機会を設けた。
	③ 「総合学科」教育の推進と充実	A	4系列の特徴を生かした授業に取り組んでおり、各種大会や魅力発信イベントで発表をすることができた。文部科学省からキャリア教育表彰を受け、これまでの実践に自信を持つことにつながった。
生徒指導 (生徒指導部)	① 挨拶・身だしなみの徹底	B	挨拶は多くの生徒が自らできるようになった。生徒会、委員会を中心とした朝の挨拶運動も多くの生徒が参加した。服装規定を守れない生徒が複数おり、各年次で対応している。□
	② 安心・安全な学校づくり	A	警察署によるスマホ教室を実施した。バイク通学者には、バイク実技講習会を実施した。また、いじめの組織的対応など職員で共有し実施している。
	③ 活気のある学校づくり	A	遠足、体育祭、文化祭をコロナ禍以前の内容で実施し、共感的人間関係の育成に努めた。また、部活動に参加する生徒も増え部活動の活性化が図られている。
進路指導 (進路指導部)	① 教科・年次・担任との連携によるきめ細かい進路指導	B	3年次に関しては、生徒の履歴書作成や、担任の調査書作成においてクラス担任・教科担任・年次の連携が取れていない部分があった。次年度以降は打ち合わせや紙面での情報共有を密にし、十分に情報共有をしながら改善していきたい。
	② 生徒個々の学力の定着指導および適性・実力把握	B	ベネッセハイスクールオンラインの実用化を進め、教科担任やクラス担任が生徒の基礎力を把握できるよう取り組みを行った。実態としてはまだまだシステムが活用されていないので、今後も先生方に活用の仕方について周知をしていきたい。
	③ 進路行事の充実	B	3年次の就職・進学対策講座や、2年次のインターンシップ等では、外部業者に委託して行っていた講話を、地域の事業主の方に依頼するなど、以前とは違う方法で、進路指導の充実に努めた。今後も行事ごとに検討を重ね改善をしていきたい。

進路指導	④ 保護者への適時・的確な進路情報の提供	B	進路の手引きを発行し、進路指導に関する情報発信を行った。また、三者面談を通して進路資料を配付し、保護者の方にも把握していただきたい内容を発信することができた。また、月1回進路広報誌「夢を形に」を発行することによって、その時期ごとの情報提供をすることができた。
4系列の特長ある教育活動	① 農学系列の教育活動の推進	B	台風19号以降、現状の施設設備で授業展開しているが、県の協力を得ながら取り組んでいる。学校農業クラブ活動では、各種発表会・技術競技会に参加、県最優秀賞等を獲得した。資格取得では農業技術検定3級取得等の成果を挙げた。また、地域との連携事業や、小・中学校での連携、出前授業など行っている。事故怪我等無く行えた。
	② 機械系列の教育活動の推進	A	丸森角田の中学校での出前授業、ゴミ集積所を製作し寄贈、ふるさと納税の出品、産直市場での製作品販売など地域連携を推進することができた。また、産業用ロボット特別教育など社会の情勢にあわせた資格取得を行うことができた。本年度も地学地就に取り組み概ね実現することができた。
	② 情報(商業)系列の教育活動の推進	B	地域連携活動として、地元企業と協力して商品開発に取り組み、伊具高祭で販売し、学校行事の活性化に協力することができた。学習面では進路達成の一助としての資格取得に取り組み、多くの生徒が合格することができた。次年度は外部講習の機会を増やし、キャリア教育を少しでも推進したい。
	③ 福祉系列の教育活動の推進	A	校外での介護実習の実施や、外部講師の活用によって、実際の現場の視点も取り入れながら指導を行うことができ、介護職員初任者研修の希望者全員修了に繋げることができた。また、技術検定では今年度新たに被服検定3級を実施し、生徒が挑戦する機会を設けることができた。地区住民等と連携した「防災さんぽ」を開催し、生徒の学びを深めることができた。
地域学校づくり (総務部)	① 地域への学校情報発信の充実	A	雁歌学報の定期発行や丸森町などへの配布、HPでの随時の発信は定期的に行えた。校内・校外の行事で外部の報道へ連絡をし、新聞・TV等に取り上げられる機会が増えた。
	② 地域と連携した教育活動の推進	A	体験入学の機会を増やし、中学生が伊具高校への関心を増やすことができた。
	③ PTA活動の充実と同窓会との連携	B	年次始めの段階で予定していた行事については実施することができた。限られた保護者の協力ではあったが、各年次の取り組み(企画・広報・事業)を行えた。